

アートフェア東京2021 見どころガイド

コレクター必見の注目作品を厳選紹介!

◆「アートフェア東京2021」概要

◆出展ギャラリー Pick Up

- G49 新生堂 / G55 秋華洞
- G56 相模屋美術店 / G60 瞬生画廊
- G70 水戸忠交易 / G71 靖雅堂 夏目美術店
- G73 繭山龍泉堂 / G83 靖山画廊



G41 √K Contemporary

初出展となる√K Contemporaryが出品するのは、昨年逝去した現代美術家の原口典之。写真は同ギャラリーでの、作家生前最後の個展に出品された《Cylinder》(2020年、非売)の展示風景。



G89 夢工房

京都の夢工房は、竹を使った四代田辺竹雲齋の巨大なインスタレーションを展示する。写真の作品はartKYOTO 2020で披露した《Connection-無限-》。



「アートフェア東京2019」の有料エリア「ギャラリーズ」セクションの会場風景。撮影：広瀬達郎(本誌、下も)

Art Fair Tokyo 2021

information

アートフェア東京2021

3月19日、20日 ▶ 12:00~19:00

3月21日 ▶ 12:00~16:00

*招待客のみ18日も入場可能、ただし開催日は全て予定

会場 ▶ 東京国際フォーラム ホールEおよびロビーギャラリー

住所 ▶ 東京都千代田区丸の内3-5-1

入場料 ▶ ガラリーセクション: 事前オンライン予約制。税込4000円(小学生以下は、大人同伴に限り、無料。特別協力美術館の入館割引特典あり。詳細は公式HP参照) / 「クロッシング」セクション & 「プロジェクト」セクション: 無料

問合せ ▶ 一般社団法人 アート東京

☎03-5797-7912

URL ▶ artfairtokyo.com



事前オンライン予約チケット販売中

<https://eventregist.com/e/artfairtokyo2021>



ソーシャルディスタンスの確保・マスク着用・咳エチケットの徹底のお願いや、顔認証+自動検温機能といった非接触型の入退場管理システムの導入などによって、可能な限りの感染症拡大防止に努めてまいります。

まさに石橋を叩いて渡るほどの徹底ぶり、これで心静かに鑑賞できるといものだが、実はさらに新機軸の試みも行われるという。

「会期中、アートフェア会場内の展示の様子を丸ごとスキヤニングしたバーチャル空間『VR Art Scope』を、インターネットを介して発信します。海外や地方にお住まいで、ご来場が叶わない方や、一度来場し、もう一度じっくり鑑賞したいという方などに、広くご利用いただけます」(同)

さまざまな工夫を凝らしながら開催される、そんな今回のAFT、肝心の展示内容で大きな話題となりそうなのが、「ギャラリーズ」セクションにお

ける、これまでにない大規模な出展ブースの出現である。なかでもメイン会場最大となる160㎡のブース展開で挑むのが、京都の夢工房(G89)。前述のartKYOTO 2020では巨大な竹のインスタレーション「上右」で話題をさらった四代田辺竹雲齋の渾身の作品が展示される。75㎡のブースでは、日本の古美術を扱う加島美術(G105)が運営する次世代型のアートギャラリー「K Contemporary(G41)」が初出展し、昨年逝去したものの派の原口典之の立体「上左」を紹介。やまじぬKAGA(G21)が新宿駅東口広場のパブリックアートを手掛けたNY在住の松山智一の作品を、たけだ美術(G109)が杉本博司の注目作を出品するなど、広大な空間を使った個性豊かな展示が目白押し。いずれにしても、今年の日本のアートマーケットの動向を占う指標となるだろうこの一大イベント、期待大の開幕まで、もう間もなくである。



こちらは「アートフェア東京2019」のロビーギャラリーの様子。「プロジェクト」セクションと「クロッシング」セクションが置かれ、無料で観覧できる。

新 新型コロナウイルス感染症の蔓延によって、いまだ甚大なダメージを被り続けている世界経済。アートマーケットもその影響を受け、2020年上半期は、世界のギャラリーの約90%が営業を停止し、売上高は前年と比較して30~40%もダウンしたという。ただし、その一方でインターネット上のデジタル取引が進み、2020年下半期の売上は徐々に回復。アートオークションの成約件数も好調に伸びて、特に現代美術のマーケットは、この間、上向きに推移しているようだ。

そうした状況のもと、昨春は中止の憂き目を見た日本最大級の国際的なアート見本市「アートフェア東京」(以下、AFT)が、世界各国のアートフェアに先駆け、来る3月19日(金)~21

日(日)の日程で開催される。東京・有楽町の東京国際フォーラムを会場に、古美術から近現代美術、工芸など、ジャンルを問わない名品珍品が一堂に会す稀有なイベントとして、2005年の第1回開催以来、すっかりお馴染みとなったAFTだが、15回目を迎える今回の出展ギャラリーは、国内・海外合わせて全141軒(*企業ブースを除く)。中止となった昨年のAFT参加予定数(全147ギャラリー)とほぼ同数となる。

その内訳は、時代や地域、ジャンルを横断した美術品が集まる有料エリアの「ギャラリーズ」セクションが115軒、百貨店や地方工芸団体などが出展する「クロッシング」セクションが12軒、今後期待される作家を個展形式で紹介する「プロジェクト」セクションが14軒。この3つのセクションを通して、凝縮された日本のアートマーケットの現在を体感できる仕組みである。

とはいえ、これだけのイベントだから、やはり来場者のだれもが心配なのは、感染症対策だろう。主催者の一般社団法人アート東京によれば、「今回は、昨年コロナ禍の中にあっても無事に開催を終えたartTNZ(9月18日~21日)やartKYOTO 2020(12月4日~6日)で培ったノウハウを活かした対策を実施します。有料エリアでは事前オンライン予約によって来場者にご入場いただくだけでなく、手指の除菌消毒・除菌マットによる靴裏除菌・

G71 靖雅堂 夏目美術店
平良志季
《閻魔大王と蕪蕪名人の地獄審判》
2020年 絹本彩色
130.3×162.0cm



G49 新生堂
楚里勇己《イロノツラナリ》2020年
金箔、典具帖紙、岩絵具、神郷紙 50×165cm



Art Fair Tokyo 2021
新生堂ブース G49
楚里 勇己 展
Yuuki Sori Exhibition

A FTの一番の見どころは、やはり古今東西の様々な分野のアーティストが一堂に会する有料エリアの「ギャラリーズ」セクション。なかでも見逃せない出展ブースをピックアップしよう。まずは日本画では、靖雅堂 夏目美術店（G71）が取り上げる平良志季の作品に注目。妖怪や和装の少女などを絹に日本画の画材で描き、その独創的でユーモラスな世界観で知られる女性作家だ。「和」の感性を持ったアーティストを発信し続ける新生堂（G49）は、楚里勇己を紹介。四季の花々をテキスタイルのように連続性を持たせて配置するモダンな構図は、現代の居住空間にもしっかりと収まりそう。

同じ日本画でも、美人画を中心に出品するのは東京・銀座の名店、秋華洞（G55）だ。上村松園、錦木清方、池永康晟、大竹彩奈など、近現代の繊細優美な逸品が並ぶ。陶芸の分野では、水戸忠交易（G70）がイギリスを拠点に活躍したルーシー・リーの茶碗を出品。人気が高く、出物の少ない物故作家なので、ぜひ会場で実物を見たい。洋画商の老舗、瞬生画廊（G60）が紹介する香月泰男の油彩も必見。「シベリヤ・シリーズ」で知られた大家の最盛期の優品は、コレクターに限らず、きつと興味をそえられるだろう。もちろん、これ以外にも見どころ満載。ぜひ会場に足を運んで、お気に入りの作品を見つけてほしい。



上右 / **G55 秋華洞**
大竹彩奈《残り香》2020年
絹本彩色 53.0×41.0cm
上左 / **G70 水戸忠交易**
ルーシー・リー
《ピンク象嵌線文碗》1972年頃
口径12.1×高9.0cm 撮影：大屋孝雄
左 / **G60 瞬生画廊**
香月泰男《飛鳩》1958年
油彩、カンヴァス 33.4×19.1cm

新生堂

新生堂 SHINSEIDO GALLERY

〒107-0062 東京都港区南青山 5-4-30
TEL 03-3498-8383 FAX 03-3499-9960
art@shinseido.com http://shinseido.com



上/《universe》2017年 油彩、カンヴァス 65.2×53.0cm
下/《真夜中のサーカス》2011年 油彩、カンヴァス 60.6×72.7cm

information

住所▶東京都中央区銀座5-14-16
銀座アピタシオン1F、2F
電話▶03-3546-7356
開廊時間▶靖山画廊=11:00~19:00
(土曜、日曜、祝日、展覧会最終日は~17:00)
SEIZAN Gallery Tokyo 凸=11:00~17:00
(土曜は予約制、日曜と祝日は休廊)
休廊日▶不定休、要問合せ
アクセス▶東京メトロ、都営地下鉄「東銀座」駅より徒歩1分、東京メトロ「銀座」駅より徒歩4分
URL▶art-japan.jp
SEIZAN Gallery NEW YORK
住所▶521 W 26th St. New York, NY 10001
URL▶seizan-gallery.com



《四大元素(大地・水・大気・火) ~The+Four+Elements~》
2019年 油彩、カンヴァス 72.7×60.6cm
一昨年、靖山画廊で開催された個展(2019年5月31日~6月13日)に出品された1点。ダークでどこか温かいまぢゅまゆワールドが広がっている。

その独創的な画風で年代を問わず人気を集めている注目の女性画家である。一風変わった名前が、画家になる直前に付けられたあだ名だという。「母が学生時代に絵を描いており、また大伯父がアマチュア画家だったこともあって、家庭には子供の頃から油絵具の匂いが染み込んでいました。私が画家になったのもそうした環境があったからだと思っています。デザイン事務所で働いた後、1997年から、ほぼ独学で画家として活動を始めました」(まぢゅまゆさん、以下同)

2010年、そんな彼女の作品が東京で紹介されると、多くの人々の共感を得た。そして、その画風がさらに

発展するきっかけとなったのが、翌年に起きた東日本大震災だった。「それまで自己の内面を押し付けるだけの絵を描いていたんですが、この大災害をきっかけに、誰かの心に響くもの、残るものであるような絵を描きたいと強く願うようになりました。私が描く創造の物語や虚構の世界は、自身のそんな心の変化から生まれたんです」

画家は、こうした自らの絵画世界を「アカルイクラヤミ」と呼んでいる。つまりは描くことによって、人間が抱える、いわゆる言い難い闇の部分と、そこに差し込む曖昧な光の部分という、相反する心の琴線に触れようとしているのだろう。その心の揺れが画面から確かに浮かび上がってくるからこそ、鑑賞者は立ち止まって目を凝らすのだ。誌面では全体をお見せできないが、今回初めて挑んだという100号の大作の圧倒的な存在感を、ぜひ会場に足を運んで堪能していただきたい。

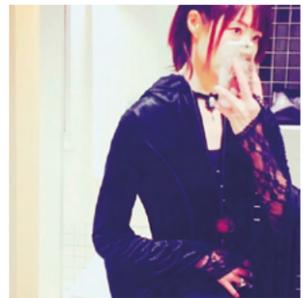


初公開! 初めて挑んだ100号の大作《創世記~Genesis M-2021~》
2点とも部分 2021年 油彩、カンヴァス 130.3×162.0cm
上は画面中央に描かれた異形の生きものたち。天地創世の「新しい生命の誕生」を表現したという。これまでの作品でもお馴染みの「子ども」の顔も見える。下の「集団仮面」は、天地創造の神々を表しているようだ。

見る者に強烈な印象を残す絵なんて、なかなかあるものではない。ここに挙げた絵は、まさにそんな絵である。暗い色調で彩られた画面には、緻密な筆致で描き込まれた数多くの生きものたちが息づいている。それらはふだん我々が見知っている生きものだけでなく、半人半獣といった異形の姿も混じり合い、いずれも人間の心の奥底にある感情を投影したかのような表情をしている。擬人化されたその顔立ちには、不安や苦悩、絶望といった負のイメージだけに限らず、風刺漫画の諧謔味ともいうのか、ブラックジョークの要素も含みながら、どこかユーモラスな温かみを感じさせて、鑑賞者は、つい立ち止まって目を凝らす。

福岡を拠点に創作活動が続けている作者の「まぢゅまゆ」は、前述の通り、

出展ブース G83
靖山画廊
SEIZAN GALLERY
初の100号大作《創世記》を出品!
まぢゅまゆが描く「アカルイクラヤミ」



まぢゅまゆ profile
1997年、油彩画家として福岡を拠点に創作活動を開始。2002年より銅版画も制作。10年、発表の場を東京へと広げ、以後、個展、グループ展を多数開催。著書に絵本画集「ヒトを食べたきりん」、作品集「COCON NOIR 黒い藪」がある。

平良志季

Love Love 妖怪 Show The 3rd
—対決—

「三美女ノ龍玉御狙い図」2020年 100号



1990年東京都生まれ。2013年東京藝術大学美術学部デザイン科卒業。15年同大学大学院修士課程 描画装飾研究室修了。奇想の画家、河鍋晝斎に私淑し、応挙や南画からも学ぶ。妖怪や和装の少女をユーモラスに描いた作品を精力的に発表する。日本人の心に根ざした民間信仰や呪いの世界観を現代にエネルギーに蘇らせている。

オンラインギャラリーも開始!
老舗古美術商が魅せる
清朝官窯の名品



《茄皮紫釉暗花龍文盤》

康熙在銘(1662~1722)
高4.6cm、径25.2cm
わずかに紫がかかった濃い青釉が美しい。高台内以外、すべての面に龍が陰刻されており、光の加減で見え隠れする。五爪の龍は皇帝を意味し、まさにエンペラーの証を示した名品。
撮影:繭山龍泉堂(この頁すべて)

information

住所▶東京都中央区京橋2-5-9
電話▶03-3561-5146
開廊時間▶10:00~18:00
休廊日▶日・祝日
アクセス▶東京メトロ「京橋」駅より徒歩3分、都営地下鉄「宝町」駅より徒歩2分
URL▶www.mayuyama.jp



MAYUYAMA ONLINE GALLERY
www.mayuyama.jp/gallery/



創業は明治38年(1905)、116年もの歴史の中で、この店の軒をくぐった著名人は数知れず、日本屈指の老舗古美術商として知られる繭山龍泉堂が今年のアートフェアで披露するのは、ご存知の「MAYUYAMA ONLINE GALLERY」で扱う品々である。「オンラインギャラリー」は、従来のお客様はもちろん、海外在住など遠方のお客様や、これから蒐集を始めようとする方々が作品と接することのできる場として、昨年新たにスタートさせた試みです。おかげさまで、これまで多くの方々にこのサイトを通してご購入いただいております(川島公之社長) 現物取引重視の古美術の世界にあって、ネット上での確かな売買取成が成立する

るのも、世界的に信頼度の高い繭山龍泉堂なればこそ。そんな同店の今回の展示内容は、中国・清朝官窯の作品を中心とした逸品十数点だ。文人趣味的な内容となっており、なかでも希少性の高い康熙在銘の《桃花紅筆洗》「白」と《茄皮紫釉暗花龍文盤》「上」は必見。他に文房具や奇石も展示されるという。ぜひ会場に足を運んで、よりリアルな深い感動を味わってほしい。



《桃花紅筆洗》

康熙在銘(1662~1722)
高3.4cm、径11.9cm
濃い赤、薄いピンク、緑の斑紋……日本人好みの変化に富む釉色が魅力の逸品。かつて繭山龍泉堂が扱った作品で、美術館開催の展覧会にも出品されている。





池永康晟「膨らむ雫・佳乃」(参考作品)
上村松園「桜かり図」(部分)
大竹彩奈「残り香」

伊東深水 上村松園 池永康晟
樋木清方 大竹彩奈 大野甘夏
阿部清子 田口由花 蒼野甘夏
沖綾乃 阿部清子 田口由花

秋華洞 SHUKADO
〒104-0061 東京都中央区銀座 6-4-8 曾根ビル 7F
TEL:03-3569-3620 **ブース No.G-55**



ART FAIR TOKYO 2021
BOOTH NO.060
香月泰男 展

* 4月6日~16日(日は休)、瞬生画廊でも本展を開催します。

瞬生画廊 〒104-0061 東京都中央区銀座6-7-19 空也ビル2階
TEL 03-3574-7688 FAX03-3574-7690
http://shunsei-gallery.jp

《机の上》1956年 油彩、キャンヴァス 15号M

BOWLS ART FAIR TOKYO 2021
-Lucie Rie- BOOTH NO.G70
会期中弊社ホームページでも作品をご覧いただけます。



水戸忠交易 MITOCHU KOEKI 東京都千代田区紀尾井町4-1 ホテルニューオータニロビー階
https://www.koeki.com Tel:03-3239-0845 右記QRコードよりホームページをご覧いただけます。

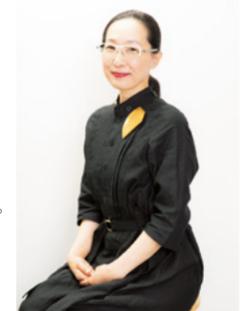
Estate of the Artist



出展ブース G56
相模屋美術店
SAGAMIYA FINE ARTS AND ANTIQUES

逸脱した世界を描く 均衡を保ちながら、

《いちご原》
2020年 ミクストメディア 72.7×72.7cm
いちごの葉に覆い尽くされた教会。コロナ禍で自然の偉大さと脅威をあらためて感じたという。その気持ち特有のファンタジックな感性で描いている。



profile
堀川理万子
画家、絵本作家。
1965年、東京都生まれ。89年、東京藝大デザイン科卒業。91年、同大学院修了。
デビュー当時からタブローと絵本の仕事を並行して手掛ける。2019年には母校の青山学院中等部礼拝堂のステンドグラス「生命の樹」の原画を制作。撮影：安達康介



《春のしらせ》
2020年 ミクストメディア 40.9×31.8cm

information
住所▶東京都中央区銀座5-6-9 5F、6F
電話▶03-3571-1222
開廊時間▶11:00~17:00
休廊日▶土・日・祝・夏期・年末年始
アクセス▶東京メトロ「銀座」駅より徒歩3分、JR「有楽町」駅より徒歩5分
URL▶www.sagamiya-art.co.jp

相模屋美術店では、「堀川理万子」展を開催、青、紫、緑を中心にした寒色をテーマに新作17点を出品する。「堀川さんはもともと知的でクールな女性。心地よい冷たさの中にも情熱を携えた作品に期待しました」(同店社長 原田裕季子さん)

これまで寒色をメインに描くことは少なく、青などは差し色で使うのみだった。しかしそこは研究熱心な彼女。新作では、青色ひとつにしても、コバルト、セルリアン、デルフト、ターコイズ、ウルトラマリン、プルシアンといった具合に、ヴァリエーションが実に豊か。静謐なトーンの中でも、持ち前の遊び心や物語性を発揮している。中でも注目目は、いちごの葉が教会や自動車を覆い尽くしているシリーズで、予定調和の物語から逸脱した不思議な



《三つの話》
2020年 ミクストメディア 19.0×27.3cm
堀川が描く静物画は、どこか人間的で親密な感情を思い起こさせる。

「憧れは仙居和尚」と語る堀川だが、今回のテーマから融通無碍な世界を指すきっかけを得たようだ。

アイコンが生まれている。譜面から外れたジャズ演奏のようにスリリングで、新境地を思わせる。コロナ禍で自然の偉大さと脅威を再認識したことが発想の原点だという。